

質の高い教育をみんなに

上田染谷丘高校 1年6組 小山雛那

sdgs**4**. 質の高い教育をみんなに



< テーマ設定の理由 >

私達は、毎日当たり前のように学校へ通い、勉強をしているが、世界には、学校に通うことができていない小学生、中学生、私達と同じ高校生がたくさんいるのだと改めて思い、なぜ学校へ通うことができないのか、また、私達にできることはないのかと思ったから。

< 世界の現状 >

・ユネスコの統計資料(UNESCO Institute for Statistics)によると、学校に通えていない子ども(6~14歳)が**約1億2100万人**いる。

・文字の読み書きができない成人は**約7億7,300万人(世界の15歳以上の6人に1人)**いて、サハラ以南のアフリカや、女性の識字率が低い傾向にある。

・低所得国においては、世帯の所得格差が子供の学校教育の修了率の格差となって現れており、不平等な状態にある。COVID-19によってこの格差がさらに拡大することが予想されている。

< 課題 >

①男の子も女の子も、すべての子どもが、しっかり学ぶ ことのできる、公平で質の高い教育を無料で受け、 小学校と中学校を卒業できるようにする。

②すべての子どもが、幼稚園や保育園にかよったりして、小学校にあがるための準備ができるようにする。

③ すべての人が、男女の区別なく、無理なく払える費用で、技術や職業に関する教育や、大学をふくめた高等教育を受けられるようにする。

④ はたらきがいのある人間らしい仕事についたり、新しく会社をおこしたりできるように、仕事に関する技術や能力をそなえた若者やおとなをたくさん増やす。

⑤教育のなかでの男女の差別をなくす。障がいがあったり、先住民族だったり、特にきびしい暮らしを強いられている子どもでも、あらゆる段階の教育や、職業訓練を受けることができるようにする。

⑥すべての若者や大半のおとなが、男女ともに、読み書きや計算ができるようにする。

⑦ 教育を受けるすべての人が、持続可能な社会をつくっていくために必要な知識や技術を身につけられるようにする。そのために、たとえば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活のしかた、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

< 解決策 >

①子どものこと、障がいや男女の差などをよく考えて、学校の施設を作ったり、なおしたりし、すべての人に、安全で、暴力のない、だれも取り残されないような学習のための環境をとどける。

②2020年までに、開発途上国、特に最も開発が遅れている国、島国やアフリカの国などの人が、先進国や他の国で、職業訓練、情報通信技術、科学技術のプログラムなどの高等教育を受けるための奨学金の数を世界的にたくさん増やす。

③2030年までに、開発途上国、特に開発が遅れている国や島国で、学校の先生の研修のための国際協力などを通じて、知識や経験のある先生の数をたくさん増やす。

< 10代からの提言 >

- ・学習支援ボランティアなどに参加する
- ・本や映画、インターネットなどで世界や日本の教育の現状を知る
- ・教育支援の活動をする団体に募金をする



< 感想 >

今回は、sdgs4,「質のいい教育をみんなに」について調べ、自分が思っていた以上に、この世界には、勉強ができずにいる人が多く、世界の深刻さを知りました。私達は幸せな生活を送っているのだなと思ったし、この生活は当たり前ではないのだと改めて感じました。教育を行っていないことが原因で貧困になったり、子供や妊婦などの死亡率が高まっているけれど、世界中の子供に教育を提供するのは、決して簡単ではないから、今も問題となっていることも分かりました。私達ができること、sdgs4に取り組んでいる団体を応援したり、将来、自分らしくはたらく事について考えてみるなどしたいなと思いました。